

令和8年5月14日

令和8年度第2回教育委員会定例会会議録

鹿児島県教育委員会

令和8年度第2回教育委員会定例会会議録

日時	令和8年5月14日（木） 10時00分～11時40分
場所	教育委員会室
出席者	地頭所教育長 小屋敷委員 堀江委員 馬場委員 桶谷委員 中村委員
(事務局職員)	兼廣副教育長 中山島教育次長兼生徒指導総括監 山本総務福利課長 徳留教職員課長 大原社会教育課長 岩元文化財課長 山田総務福利課企画監 七夕教職員課人事管理監（県立） 尾堂教職員課人事管理監（小中） 福重高校教育課指導監 森田総務福利課長補佐 上戸保健体育課長補佐

議決事項

件名	提案理由	審議の状況	採決の次第
議案第1号 学校職員の懲戒処分について	学校職員の非違行為について、教育公務員としての責任を問おうとするものである。	特記事項し	決定
議案第2号 学校職員の懲戒処分について	学校職員の非違行為について、教育公務員としての責任を問おうとするものである。	特記事項し	決定
議案第3号 学校職員の懲戒処分について	学校職員の非違行為について、教育公務員としての責任を問おうとするものである。	特記事項し	決定
議案第4号 鹿児島県スポーツ推進審議会委員の任命について	鹿児島県スポーツ推進審議会委員の辞任に伴い、その後任を任命しようとするものである。	特記事項し	決定
議案第5号 鹿児島県立図書館協議会委員の任命について	鹿児島県立図書館協議会委員の辞任に伴い、後任の委員を任命しようとするものである。	特記事項し	決定
議案第6号 鹿児島県文化財保護審議会委員の任命について	鹿児島県文化財保護審議会の委員の任期満了に伴い、その後任を任命しようとするものである。	特記事項し	決定

会 議 要 旨

1 開会

2 会議の公開等について

議案第1号から議案第6号まで及びその他(2)は、非公開で審議する旨教育長から発議があり、全会一致で議決された。

3 令和8年度第1回教育委員会定例会会議録について

令和8年度第1回教育委員会定例会の会議録について、承認する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

4 その他

(1) 鹿児島県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

－ 鹿児島県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について －

〈高校教育課指導監が資料に沿って説明〉

〈質疑〉

(小屋敷委員) 高校入試に関する分析は非常に大事であると思う。経年比較を行う際には、総合点や教科別の平均点の結果だけにこだわる必要はないと考える。しかし、前年度と比較して総得点が低くなっており、各教科においても、英語以外の教科で得点が低くなっている状況である。問題内容等は昨年と比べてどうだったのか。また、受検者全体の学力の状況について、どのように分析しているか。今回の選抜入試における平均点や各教科の平均点が低下している要因について、県教委の見解を教えてください。

(高校教育課指導監) まず、問題の難易度について、今回の結果を受けて、義務教育の立場から客観的な意見を伺う機会があった。例年と比較して、この問題が特に難しかったという意見は聞かれず、むしろ今回のように思考力・判断力・表現力を重視した出題形式を今後も継続してほしいとの声や、入試問題が授業改善に寄与するメッセージとなるものだという意見が寄せられた。このことから、高校入試が、知識の量や程度に偏った出題ではなく、身につけた知識、技能を活用して、解決に必要な思考力・判断力・表現力を問う出題を重視したということの意味しており、それが今の子供たちに身に付けさせたい能力であると御理解いただけたのではないかと考えている。

例えば令和8年度は、複数の資料を提示して、思考力や分析力を問う問題や、論述式で解答を求める問題、本文、設問ともに読解力が必要となる問題があった。問題の質に関しては、非常に工夫を加えており、その結果として受検生の課題となる部分であったと捉えている。小・中学校で重視される能力が適切に評価されるように、試験後に高校の各教科からいただく所見や中学校からの意見を踏まえて、問題の質の向上と改善への取組を継続していく必要があると考えている。

今回、平均点や目安点が低くなったことについては、特に目安点未満の人数の増加が懸念される。

目安点相当の問題は、例えば国語では、小説内の語彙のうち「たしなめる」という言葉の意味を問う問題で正答率が10.6%と非常に低い結果となった。社会では歴史的事項など特定領域で基礎的な知識定着に課題があると考えている。

全体的な平均点の低下については、全教科に共通して設問の意図を読解する力、論理的思考力、自分の言葉で表現する力にも課題があり、平均点未満の人数が増加している要因だと考えている。この課題は今回の受検者を対象（中学3年4月時）に調査した令和7年度全国学力学習状況調査でも確認されており、課題とされている事項が高校入試においても、正当率が低かった問題と重なるという結果であった。今回の結果を踏まえ、今後は問題の質を高めつつも受検者の解答の状況を注視しながら、問題作成について取り組んでいく必要があると考えている。

(小屋敷委員) 問題については、例年並みという声が多かったという理解でよろしいか。昨年度までと比べて、問題の傾向や出題の仕方が大きく変化したということではないと理解して良いか。

(高校教育課指導監) そうである。大きな変化はない。

(小屋敷委員) 国語が昨年度に比べて約10点低いという結果が少し懸念される。思考力・判断力・表現力は一番重要視される要素だと思う。国語については、他の教科と異なる視点での分析も必要だと思うので、県としてもしっかりと分析していただきたい。活用ガイドを各市町村や学校単位で活用できるようにされるとのことなので、実際にこのガイドを活用して学校でのデータ分析が進み、子供たちの実態に即した指導や授業改善につながることを期待する。是非ガイドの活用状況も把握していただき、今後の分析データの開示の仕方等にも反映していただきたい。

(馬場委員) 問題は特に変わっていないという説明であったが、実際に受検した生徒からもそのような声があったのか。

(高校教育課指導監) 受検生からの意見は聞き取りしていない。

(馬場委員) どのような方々から意見を聴取されているのか。

(高校教育課指導監) 問題に関する意見については、採点後に各学校から各教科の大問ごとに所見をいただいている。また、全ての中学校ではないが、中学校にも所見を依頼している。調査結果が出た4月以降には、義務教育課の指導主事からも客観的な視点で忌憚のない意見を求めたところ、問題の難易度などに大きな変化はないとの回答をいただいた。

(馬場委員) 問題が変わらないということであれば、受検生の学力が不足していたということか。

(高校教育課指導監) 県教委としては、受検生の課題になっている部分を問題に設定し問うていた。今回の解答傾向から課題になるところや力が不足しているところが見えてきたと捉えている。

(馬場委員) 過去6年分のデータを見ると、難易度が徐々に上がっている印象を受ける。問題は難しくなっているのに対し、学力が十分に伴っていないということになると思うので、中学校までの学校での指導を見直し、改善する必要があるのではないだろうか。

(高校教育課指導監) 中学校の授業を拝見したことがあるが、非常に丁寧に意識を持って授業が行われていると感じている。しかしながら、入試の結果等を踏まえた上で、中学校の授業においてフィードバックを行う意識を更に高めていただきたいと考えているため、今回活用ガイドを作成した。

(馬場委員) テスト問題を拝見すると、自身の時代と比べても情報量が非常に多いと感じる。現在の子供たちには、より高い情報処理能力が求められていることを実感した。しかし、問題が難しくなると、子供たちは安全志向になりやすく、挑戦することよりも「行けるところに行く」という判断をする傾向があると思うので、問題作成にあたっては、子供たちが積極的にチャレンジできるような視点でも考慮していただければと思う。

(高校教育課指導監) 情報処理能力はもちろんだが、思考・判断・表現を行うための十分な時間を確保できるような問題の構成も意識したいと考えている。また、難易度が高すぎて挑戦しないという状況にならないように、設問の構成も配慮しながら作成していきたいと考えている。

(中村委員) 問題の難易度は変わらないが、情報を整理する力や論理的に物事を考えて解答を導く力を重視する問題に変更されたから、平均点が下がったのか。難易度とは異なる要因で点数が低下したということか。

仮にそうだとしたら、現代社会では多角的に物事を見て総合的に判断する力が非常に重要だと感じているので、教育現場における課題解決能力等を身につけさせるための方策等について、活用ガイド以外に具体的な取組があれば教えてほしい。また、例年の分布図の傾向として、数学や英語において正規分布しておらず、低い位置に山ができていく状況はどのように捉えているか。低い層の増加は好ましいことではないと思うので、この課題に対して、県教委としてどのような対応を考えているのか。

(高校教育課指導監) 今回の結果から、情報を整理したり論理的に考えたりする力が十分に定着していないことが明らかになったと考えている。問題の難易度ではなく、内容や質、出題の仕方が変化している部分はある。これは、県教委が身に付けさせたい力や、高校入学までに習得しておいてほしい能力を測るねらいで問題を作成した結果だと受け止めている。

活用ガイドについては、概要とともに各学校、総合教育センター、教育事務所、市町村教育委員会等に送付する予定である。各高校では、このガイドを解き直しの際に使っていただきたいと考えている。教育事務所等では会議等で市町村教育委員会に対して、地区で強化すべき課題や教科について話をする際に、総合教育センターでは講座の際に活用していただきたいと考えている。

数学や英語に関しては、毎年上位層が伸び悩み、今回と同様のグラフ傾向が見られることは大きな課題として捉えている。毎年分析を行い、指導をお願いしている。点数は低い状況であるが、個々の解答を確認すると、数学では、点数だけでは見えてこないものの、粘り強く解こうとしている姿勢が見受けられる。また、英語では対話的な学習を進めることで力につながっているという結果も見受けられる。このような積み重ねが、最終的には点数にも反映され、グラフの形状が変わっていくのではないかと考えている。毎年このような状況であるため、時間を要するかもしれないが積み重ねていきたいと考えている。

(桶谷委員) 目安点未満の人数が増加していることに関して、全国学力学習状況調査などでも同様の傾向と課題が見られていたという説明であったが、各調査で取り上げられた問題を、各学校の先生方がしっかりと分析して授業等で教え込んでいるのか。もし調査結果を踏まえた指導がなされていれば、今回異なる結果になった可能性もあると考えるが、いかがか。

(高校教育課指導監) 義務教育の段階で調査結果を踏まえて、どのような形で指導されているかという点については、当方で十分な説明はできないが、全国学力学習状況調査などの鹿児島県の結果分析については非常に詳細に示されているため、これを参考にしながら各学校等においては、課題となる部分等の考察を読まれて指導に取り組まれていると考えている。

(堀江委員) 活用ガイドの作成は非常に良い取組だと思う。高校における入試問題の解き直しについては、全ての問題を解くのは難しいと思うが、特に目安点に関する問題を再度高校で取扱うことで基礎的な学力の確認もできるので有意義だと思う。また、その際はフィードバックもしっかり行っていただきたいと思う。

目安点未満の地区別状況は、大隅地区が10.4%と特に高く、次いで南薩地区も多い。この大隅と南薩の目安点未満の人数が多いことについて、分析はされているのか。

また、地区別状況を踏まえて、今後どのように指導されていく予定なのか。

(高校教育課指導監) まず、活用ガイドに関して委員から御意見いただいた基礎的部分の解き直しについては、高校教育課が各学校向けに毎月発行している「高校教育課だより」においても触れたいと考えている。

地区別の状況については、特に南薩や大隅地域において課題があるが、高校教育課では細やかな分析ができていないため、

各教育事務所等において十分に指導をしていただくようお願いしたいと考えている。

(小屋敷委員) 平均点等が経年的に低下している傾向があるが、隔年現象もあるので、令和9年度の選抜入試学力検査の問題作成に当たっては、子供たちの実態や中学校の指導や高校入学段階において求める力等を十分考慮する必要がある。今回の結果が低かったからといって問題設定が甘くなるような揺り戻しがないように、適切な問題作成を心がけていただきたい。

〈質疑終了〉

- 5 議案
議案第1号 学校職員の懲戒処分について
(非公開)
- 議案第2号 学校職員の懲戒処分について
(非公開)
- 議案第3号 学校職員の懲戒処分について
(非公開)
- 議案第4号 鹿児島県スポーツ推進審議会委員の任命について
(非公開)
- 議案第5号 鹿児島県立図書館協議会委員の任命について
(非公開)
- 議案第6号 鹿児島県文化財保護審議会委員の任命について
(非公開)
- 6 その他
その他(2) 令和7年度県立学校職員の後期業績評価について
(非公開)
- 7 閉会